

## 賛美歌とわたし～聖句と賛美歌～ 平口 哲夫

私は、金沢市立野田中学校1年生のときに現・金沢大学教育学部附属高校の敷地内にあった分校で学び、2年生になってから現・野田中学校(本校)に通学し、演劇部に入会。演劇部の1年先輩に藤田英典さんがいて、演劇練習中、教室の窓から見える若草教会のことが話題になり、誘われて教会の日曜学校に通い始めました。

若草教会の日曜学校で最初に覚えた賛美歌は、「主われをあいす」(『讚美歌 I』461番、『讚美歌 21』484番)であり、いまでも私の愛唱賛美歌の一つとなっています。賛美歌「きよしこのよる」は、クリスマスソングとして世間で広く歌われていたので、日曜学校に通うようになる前から知っていました。

さて、石川県立泉丘高校に進学してからは、藤田さんが属する「聖書研究会」に入会。この「聖書研究会」はハイ・Y(ハイスクールYMCA)の活動をしていました。YMCAとはYoung Men's Christian Association(基督教青年会)の略称。当時、金沢YMCA会館が金沢市上柿木畠18(現・金沢市広坂1-6-14)にあり、専任職員が何人もいて、青少年事業を盛んに行なっていました。なお、ハイ・Y活動だけでなく、若草教会の若樹会(高校生の会)の活動もあいまってキリスト教入門を志し、高校2年のイースターに若草教会2代目牧師・森野善右衛門先生から洗礼を受けました。

東北大学文学部に入学し、1か月のアパート生活と3か月の下宿生活を経てから、8月に東北大学基督教青年会の溪水寮(仙台市上杉山3-7-8)で生活し始めたので、学Y(学生YMCA)の活動にも参加。学部卒業後、修士課程2年間は仙台市米ヶ袋で間借、博士課程3年間のうち2年間は主事として溪水寮に戻り、最後の1年間は米ヶ袋での間借復活。

1974年4月に金沢医科大学教養部(現・一般教育機構)に就職。ハイ・Yで1年先輩だった上関和夫さんが金沢YMCAの主事をしていたことから、誘われて金沢YMCAの維持会員に。2000年頃、私は諸事情で金沢YMCAのほうは「幽霊会員化」。しかし、かつて若草教会の3代目牧師をしておられた井上良彦さんが2002年に金沢YMCA9代目理事長に就任されたことや、私が2004年に脳梗塞で入院して人生観が多少変わり、金沢犀川ワイズメンズクラブ(以下、クラブと略称)に入会したことも手伝って、金沢YMCAの理事に再び咲いた次第です。

ワイズメンズクラブの「ワイズ」は、賢いという意味のwiseではなく、YMCA(Y's Men's Club)のYに由来します。このクラブはYMCAを支援する団体ですが、独自の活動もしています。その活動はキリスト教の精神に基づいてはいるが、布教活動をしているわ

けではなく、ノンクリスチャンの会員も大勢いる超宗派の団体です。

私は10年以上、金沢犀川クラブのブリテン(月報)の編集と、ホームページ(HP)の作成を担当。このブリテンは2ページ立てで、第一面に「今月の聖句」という小欄が設けられています。あるとき、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区の大先輩からいただいたメールに、「“今月の聖句”に対応した“今月の賛美歌”をHPに掲載したらよいのでは」という提案が記されていました。讚美歌集には聖句引照索引が付されているので、それを参考に検討することはできます。しかし、当方が選んだ聖句にふさわしい賛美歌というのは、なかなか見つけにくいので、聖句との関係にはあまりこだわらずに「今月の賛美歌」を選んでいきます。なお、このHPでは、讚美歌集だけでなく、個々の歌についても「賛美」ではなく「讚美」を用いています。

金沢犀川クラブのHPのブリテンインデックスでは、賛美歌の初句をウェブサイト *The Cyber Hymnal* にリンクさせたり、賛美歌番号を日本基督教団札幌中央教会の「讚美歌検索」にリンクさせたりして、曲を聴くことができるようにしている場合があります。しかし、*The Cyber Hymnal*には日本のオリジナル賛美歌は収録されておらず、また札幌中央教会の「讚美歌検索」では著作権の関係で未収録の賛美歌の多いことが難点になっています。

“今月の賛美歌”提言を受けた日から遡って、2004年6月号からHPに“今月の賛美歌”を掲載。最初は自分の愛唱賛美歌を掲載することが多く、同じ曲を選択することもありました。最近では、自分が歌ったことのない賛美歌も歌詞内容を考慮して採用するようになりました。また、2015年7月から2017年6月までの2年間、金沢犀川クラブの会長を務め、会長標語として「平和を実現しよう!」を掲げたので、なるべく「平和」という言葉が記された聖句や、「平和」に関連した聖句を選びました。たとえば、2016年11月号では、「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。」(ヘブライ人への手紙12章11節)を選びました。

なお、「聖句」を掲げるだけでは意味が分からないという会員の感想があったので、2012年5月号から短い解説をブリテン第一面に開催することにしました。聖句の選択も、その解説文も、ノンクリスチャンの会員を念頭におかねばいけないし、スペースも限られているので、かなり時間と労力を要しますが、これも、怠らずに聖書をよく読みなさいという、神様のお導きなのでしょう。